

いつも一緒に 富山のペットたち

家庭で飼われる犬と猫を取り巻く環境は近年、大きく変化しました。今まではあまりなかった病気が多く現れるようになり、病院でよく診る病気も変わってきています。今回は、犬と猫の現代病とも言える病気について解説します。



エール動物病院長
(舟橋村東芦原)

佐渡 啓樹

犬と猫の現代病

猫はストレスによって特発性ぼうこう炎になるケースが多く、尿の回数が増える、血尿、尿失禁などの症状が現れます。ぼうこう内に尿石がたまったり、炎症で死んだ細胞や白血球が塊になったりして尿管を引き起こし、重症になる場合もあります。

頻繁に手をなめる、自分の尾を追いつく、ふんを食べるとい



昼寝中の19歳の長寿犬。重度の認知症だが、家族の深い愛情に支えられている



家の改築工事によるストレスで、特発性ぼうこう炎と急性腎障害を起こした猫

趣味
し
じゃー

1 性皮膚炎と炎症性腸疾患は、免疫系の異常によって生じる病気です。炎症性腸疾患は犬猫の胃腸に起こる一種の過敏性の炎症で、軽いものは見通されがちです。月に数回嘔吐や軟便

均寿命が長くなったことで、高齢動物ならではの病気が年々増えています。高齢になると、犬も認知症に悩むことがあります。夜鳴きや徘徊、失禁、狭い場所に挟まれる

ストレス・高齢化引き金

末梢血流を改善
次は免疫系の異常です。刺激や病原体を防ぐバリアーが弱くなるアトピー性皮膚炎、刺激に対して過敏反応を示すアレルギー

「シャンプー療法」のほか、代謝や末梢血流を改善する副作用の少ない薬物での治療も有効性が認められています。最後に、高齢化による病気に

進行してしまった認知症には有効な治療法がありません。介護が必要となり、家族にかかる負担も大きくなります。そのため

トフードを積極的に食べさせ、生活の中で新しい刺激を与えるなど、認知症予防を心掛けましょう。明らかに症状が出た場合は、症状を軽減する薬物での治療や、抗不安薬、鎮静薬を使った対症療法などを、病院と相談しながら行ってください。

「いつも一緒に 富山のペットたち」は、毎月第1木曜日に掲載します。

2012(平成24)年 9月6日
北日本新聞